

ある時、私はおばあちゃんと商店へ出かけた。

私は、前へ前へと大きく、堂々と歩いていた。

商店にはとてもたくさんの、それはもうたくさんの色々な売場がある一果物、ありとあらゆるきゅうり、焼き菓子、キャンディー、卵、ソーセージ、お茶、それから人、人、人。

ふと後ろを振り返ってみると一なんと、おばあちゃんがいない！

一おばあちゃん、私、ここ！一危うく耳が壊れて、聞こえなくなってしまいそうなほどの大声で叫んだ。

私は、その場に立ち止まらず前へと走りだした。

一おばあちゃん、私はここよ！一私は一層大きな声で叫び、一層早く走った。

一おばあちゃん、わた、私は、ここよ、ここ、ここ！一とうとう涙があふれ、立ち止まってしまう。

ようやくここで、おばあちゃんは私に追いつき、助けてくれた。実は、おばあちゃんはずっと前から私を見つけていたらしかった。私が大きく、足が速かつたものだから、その時まで追いつくことができなかつたらしい。